

毎月1日配信

\企業型DCで安心の生涯設計！/

2025

12



Newsletter



景気と資産価格はどうつながる？— 金利・物価とDC運用の基本

物価や金利の変化は、毎日の生活だけでなく、DCの資産価格にもじわっと影響します。今回は、このつながりを少しだけのぞいてみましょう。

景気がよくなると、企業の売上が伸び、人々の買い物も活発になります。経済全体のお金の動きが大きくなるため、物価もじわじわ上がりやすくなります。

ただし、物価が上がり続けると、生活の負担が増えたり、企業の仕入れコストが重くなったりと、“景気が良いはずなのに暮らしが苦しくなる”という状態になってしまいます。

そこで国（中央銀行）は、景気の過熱を防ぎ、物価の上昇を落ち着かせるために金利を引き上げることがあります。

金利が上がると、企業がお金を借りる際の利息も高くなるため、設備投資や新しい事業への挑戦が慎重になります。結果、「利益の伸びが少し鈍るかも」という見方が広がり、株式への投資も慎重になる傾向があります。

一方で、金利が高いと預金や債券の利息が増えるため、「リスクのある株式より、安全な資産の方が良いかも」という動きが生まれ、株式から預金・債券へ資金が移りやすくなることも、株価が落ち着きやすい理由の一つです。



反対に景気が弱くなると、人々の支出も控えめになり、物価も落ち着きやすくなります。国は景気を下支えするために金利を下げ、企業がお金を借りやすい環境をつくります。その結果、企業の活動が回復しやすくなり、「これから経済が持ち直しそうだ」という期待から、預金や債券に移っていた資金が株式に戻ってきて、株価が上向きやすくなるのです。



✓ 仕事も“波”との付き合い方が大切

仕事も、順調なときもあれば、思い通りに進まない時期もあります。それでも、小さな改善を積み重ねれば、仕事の成果はゆっくりと育っていきます。投資も同じで、波に一喜一憂せず、コツコツ積み立てることが未来のゆとりにつながります。

➡ 次回予告—次回（1月号）からは、新シリーズ「なるほど！投資のキホン」をスタートします。

第1回は「そもそも株式ってどういう仕組み？」。売り切れはあるの？追加で売られることは？株価はどう決まるの？— そんな素朴な疑問について、一緒に見ていきたいと思います。

おすすめ！



【乗り遅れたあなたに】確定拠出年金ってそもそも何ですか？

これさえ見れば、納得・安心して始められます！



Click!

